

平成23年度 自己評価計画に対する最終報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）
<p>1 学習指導と進路指導の充実を図る。</p> <p>個に応じた指導による基礎・基本の定着</p> <p>確かな学力の増進</p> <p>普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実</p>	① 授業の進め方を工夫し、生徒が授業に集中し、学習活動に参加するようにする。	授業に集中し、学習活動に集中していると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	A 生徒による授業評価 7月 83% 12月 83%	各教科で生徒の集中力を高める授業の工夫について研究し、生徒が授業に集中する割合が増加しているが、1年生の割合が低く、授業に集中していると答える生徒の割合が前期と後期で変わらず、集中していない生徒の固定化が見られる。次年度は、今年度の取り組みをさらに強化するとともに、1年生の入学当初のガイダンスを充実させ、様々な要素を抱えて授業に集中できない生徒の指導についてホーム担任、相談室と連携しながら改善していきたい。
	② 前・後期に、各1回校内公開授業週間を設け、研究授業・研究協議会等を充実する。また、研究授業における協議内容を全職員に報告する。	公開授業週間等に他の教員の授業を参観した回数が年間 A 5回以上である B 4回である C 3回である D 2回以下である	B 教職員学校評価アンケート A+B 7月 22% 12月 79%	今年度は全教科で研究授業を行ったり、公開授業において共通の研究テーマを設けるなどして授業改善に対する取り組みが活発に行われたが、授業参観の回数が不十分であった教員も2割以上いた。次年度は年間を通じて授業参観を行い、授業参観がさらに活発に行われるようにしていきたい。
	③ 家庭学習の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 50%未満である	B 生徒学校評価アンケート 7月 75% 12月 75%	昨年度後期の学校評価における回答67.5%に比べ、課題の提出率は増加しているが、1、2年生ではまだ提出率が十分でなく、ある程度だけばそれで十分と考える生徒もいる。各教科で生徒が取り組みやすい課題を準備し、家庭学習を定着させていきたい。
	④ キャリア教育を充実させ、高校生活における個々の目標を設定させる。	本校に入学して良かったと思う生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 生徒学校評価アンケート 7月 75% 12月 77%	本校に入学したことの満足感を持っているが、この点とキャリア教育の充実度とは結びついていない。次年度は、高校生活の目標を早期に持たせるために、1年は新入生特別講座と合宿を4月に実施、2年生はインターンシップの内容を拡大し、多くの生徒が参加できるようにする。
	⑤ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 生徒学校評価アンケート 7月 69% 12月 69%	進路ガイダンス、個人面談等の回数を重ねている。1、2年次は学習の現状から安易に流されないよう指導をしており、生徒自身が具体的な目標を立てる前段階にある。次年度は生徒が具体的な進路目標を早く立てるよう指導していきたい。
	⑥ 生徒に学習目標を設定させるとともに、個に応じたきめ細かな指導により、学力の向上を図る。	前回よりも成績が上昇した生徒の割合が A 70%以上ある B 60%以上ある C 50%以上ある D 50%未満である	D 校外模試の結果 7月から12月で成績が上昇 1年 41% 2年 49%	特に英数において、中学時代までの学習に欠落部分を持つ生徒が半数以上おり、高校の授業が積み上がらない。学び直し教材を活用しているが、自学できず、時間をかけて指導している。改善策として、学び直し教材の活用の工夫や小課題を積極的に取り組ませる工夫が必要である。11月模試から1月模試においては、1年生58%、2年生53%の上昇と、「C」判定となった。本校の大半は成績Dゾーンにあり、この層での数値の変化は生徒の実態を反映していない。次年度は生徒の実態にあった評価基準を設定する。
	⑦ 視野を広げるとともに、考える力や表現力を伸ばすため、3年間を見通した小論文指導を行う。	小論文指導に積極的に参加することができたと答える教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	A 教職員学校評価アンケート 12月 77%	小論文指導は、進路指導や推薦入試対策など、本校においては大きな役割を担っていることを教員全体が理解している。今後も小論文指導を強化していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学習指導に関して、教員は生徒の実態に合ったわかりやすい授業を行っていると考えているが生徒はそう感じていない生徒もいるので、教員と生徒との意識にややずれを感じる。生徒に与える課題に関して、生徒の実態に合った与え方の工夫が必要ではないか。平成25年度から新学習指導要領が完全実施されるが、どのような方針でいくのかを明確にする必要がある。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	教員の授業力を総合的に高めていくとともに、生徒に対する学習指導の在り方についても、教員の共通理解を図りながら検討していきたい。家庭学習の定着が大きな課題であり、生徒の個々の学力レベルにあった課題を準備できるよう検討していきたい。各コースの様々な教育活動の再点検を行い、本校の特色を十分活かし、生徒一人ひとりが進路実現できるような進路指導体制を構築していきたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）
2 望ましい基本的な生活習慣を確立する。 遅刻や欠席の減少 挨拶などの礼儀指導 端正な服装容儀 規範意識の高揚	① バスの乗車マナーや自転車運転マナーの向上を目指す。	通学マナーが良いと答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 生徒学校評価アンケート 7月 92% 12月 93%	通学マナーが良いと答えた生徒の割合は90%以上であるが、実際は乗車マナーにしても自転車マナーにしてもまだまだ改善が必要である。今後とも全校集会やS Tでの担任指導および登校指導等で呼びかけや注意指導を行っていききたい。
	② 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導（生徒心得の遵守）を全職員で行う。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 生徒学校評価アンケート 7月 84% 12月 87%	服装容儀については、9月の一斉指導でスカート丈などはかなり改善された。朝の登校指導等を通してこれからも粘り強く指導していききたい。
	③ 「遅刻防止週間」を毎月1回設け、遅刻の減少を目指す。	年間の遅刻者の延べ人数が A 800人以下である B 900人以下である C 1000人以下である D 1000人を超える	D 3月末日現在 昨年度 873名 今年度 1232名	今年度は頻繁に遅刻する生徒が増加し、総件数が昨年度に比べかなり増加してしまった。次年度については、保護者に連絡するだけでなく、生徒共々学校に来てもらい指導注意を促すなどし改善を図っていききたい。
学校関係者評価委員会の評価	遅刻者が増えている。いろいろな問題を抱えて投稿するために遅刻する生徒もいるが、ほとんどは、ちょっとした意識で防ぐこともできるので、粘り強く指導してほしい。学校組織として、ぶれのない指導が必要である。教職員の共通理解を常に図っていく必要がある。辰巳祭や行事等での女子生徒の座り方が悪い。きちんとしたマナーやしつけを指導してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	今年度は、遅刻者の延べ人数が大幅に増加した。保護者に連絡するとともに、家庭と連携して指導していく体制を整えていききたい。生徒指導担当だけでなく、学年団との連携も密にしながら全教職員が生徒指導担当という意識を持って指導していく。規範意識や社会のマナーの指導については、全校集会やクラスごとのS T、L H等、様々な場面を捉え粘り強く指導していききたい。			
3 豊かな人間性と社会性を育成する。 文化創造の意欲と資質の向上 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	① 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役だったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 生徒学校評価アンケート 7月 59% 12月 60%	C評価ではあるが、「人間関係づくり」の活動に関しては、昨年度に比べ学年主体で取り組むことができた。実施ごとの生徒の振り返りもかなりの生徒が有意義な活動として捉えており、次年度も継続してL H計画に取り入れていききたい。
	② 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	ボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	D 生徒学校評価アンケート 7月 38% 12月 44%	学校では年3回の地域でのボランティア清掃活動を行っていて、参加率は高いと思われるが、生徒の意識が低いのではないかとと思われる。さらに奉仕活動の意義を理解させ、ボランティアに参加する意識を高めていきたい。
	③ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	エコ活動の取り組みに積極的であると答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 生徒・教職員学校評価アンケート 12月 生徒 75% 教職員 95%	年3回の「エコ活動取り組みチェックシート」による調査では、エコ活動に対する意識は、学年があがるごとに、また調査を重ねるごとに向上しているが、紙のリサイクルやゴミの分別に比べると、節電にはさらに努力が必要である。また、生徒の意識と実態も大きく異なるため、環境教育に教職員全体で取り組み、日常の指導を通して、生徒の意識を向上させたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒との面談を多くしたり、将来の目標を見いだせるような環境づくりに取り組んでほしい。生徒一人ひとりを大事にすることによって、生徒は学校を楽しんでいると感じる。ボランティア活動を年3回やっているということだが、地域の町会長に連絡し、地域と連携した取り組みにしてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒は人間関係で悩み教師に相談するケースが多いので、ホーム担任や教育相談担当等の面談の機会をできるだけ多く行い、生徒理解に努め対応していききたい。「人間関係づくり」活動を通して、人を思いやることや自分を大事にするところを育てるための手立てをいろいろ工夫していく。ボランティア清掃を年3回行っているが、生徒の意識が低い。生徒が主体となった活動を展開することにより、奉仕の精神を育てていきたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および次年度の扱い(改善策等)
4 時代を生きぬく、積極的で活力のある人間の育成を図る。 部活動の活性化 生徒会活動の活性化 健やかでたくましい心と体の育成	① 1年生には全学部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 生徒会調査 7月 95% 1月 89%	実際に活動している生徒の割合は高いが、現実的には、部活動が活発であるとはいえない。特に運動部について対策を講じる必要がある。判断基準の見直しをすると共に、活性化のための取り組みを図りたい。
		部活動指導が強化され、部活動が活性化されたと答える教職員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 教職員学校評価アンケート 7月 79% 12月 66%	強化部を指定し、効果的な部費の使用を進めた。(強化部費扱い) また、外部講師の招聘や毎週水曜日を「部活動の日」とし、会議を入れず、顧問が部の指導に当たる日を設けている。さらに、教員の指導に費やす時間を増やすなど対策を講じたい。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通じた体力の向上を目指す。	男子で12分30秒以内、女子で7分45秒以内の記録を達成した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 体育科調査 1月 62% 男子 71% 女子 55%	運動レベルが高い生徒と低い生徒ではっきりとタイム差が出ている。来年度も継続した目標タイムにし、体育の授業導入時に、タイム設定したシャトルランを取り入れ、持久力の全体的な底上げを図り、目標を達成していきたい。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感をもてる生徒会行事を企画・運営する。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 行事終了後の生徒アンケート 7月 75% 辰巳際 73%	生徒は、新入生歓迎会やスポーツ大会、挨拶運動、辰巳祭などの行事で概ね「よい」と答え、特に、辰巳祭ではPTAの協力もあり、これまでのやり方を変更し、また台風の影響を大きく受けたが、なんとか実施できた。今後も生徒のやる気と、多方面からの支援・協力を得ながら進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動については、特定の部活動は良い結果を収めているが、中学校から継続しているような部活動は一層の部員獲得による活性化を願う。部活動の活性化の取り組みを強化し、魅力ある部活動にしてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	部活動の活性化は学校を活性化させるためにも重要であるので、部活動の加入率を高めるとともに活動の充実を一層強化していきたい。本校部活動の牽引役となる強化部の指定を継続し、その成果が向上することによって全体のレベルアップにつなげていきたい。			
5 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実 開かれた学校づくりの取り組みの推進	① 地域及び小中学校等との交流活動やカリヨンニュース等の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	各種の交流活動や広報活動を通して、学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	A 保護者学校評価アンケート 7月 85% 12月 84%	今年度の進路に向けた中学校との交流活動である体験入学、広報活動の遅れや内容の充実という点からは反省点が多い。本校各コースの特色を連携しながら最大限アピールできる方策を内容として盛り込み、広報活動の時期や他の学校との日程の重複を避け実施できるように来年度に盛り込みたい。
	② 主な学校行事等も含め、本校の特色ある教育活動をホームページを通して発信する。	ホームページを通して情報の発信が適切に行われていると答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 保護者学校評価アンケート 7月 78% 12月 79%	各コースや担当者の責任に委ねるところが多く、実質的に更新の回転が悪くなっている。最新の行事や出来事から、更新内容がすぐわかる工夫も必要とされるが、各コース、担当への更新を促す取組も必要とされる。
学校関係者評価委員会の評価	ホームページ、メール配信、広報誌などをもっと活用して、学校の様々な行事や取り組みを積極的に発信して行ってほしい。同窓会の名簿を作成し、社会で活躍している卒業生をもっと活用していけばよいのではないかな。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	ホームページは各行事終了ごとに更新するようにしているが、トップページのデザインや見やすさ等を改善し、中学生や地域住民等に学校の教育活動を早く紹介できるよう努めていきたい。創立30周年が3年後となっており、同窓会組織の強化を図るとともに卒業生の協力も得ながら本校のPR活動を行っていききたい。			